

●命の誕生という最も重要な営みの場が危機に瀕している。「個人が」「病院で」「無事に」という固定観念を、かつてのお産や異国のお産からほぐす時、変革の一步が始まる。

産む・育てる・伝える

—昔のお産・異文化のお産に学ぶ—

天理大学 安井眞奈美 編

近年、奈良県をはじめ、全国的に産科医や産科医院が減少し、決して母親が「安心して産める環境」にあるとは言えません。しかしこれは、産科医が増えれば問題は解決する、という単純なことでは決してありません。なぜなら、産む環境をめぐる現実には、生と死に関する意識の変化、地域医療の現状、国の医療費削減、現代社会における過剰な情報など、さまざまな要因が絡んでいるからです。

まずは、現代に生きる私たち自身が、広い視野のなかで「産む」そして「産まない」ということを改めて捉えなおし、問題を整理する必要があることを、日々、痛感してきました。そのため、現代の出産が、どのような過去を経て今日に至っているのか、また、異文化ではどうなのかを知り、現代社会を問い直すところから始めよう、とシンポジウムの開催を企画しました。

第一章では、出産に関する習俗が地域や時代によっていかに多様であるか、また身体そのものが変化してきた現代においては「産む」ことをめぐって、いかなる問題が生じているのかが示されます。

第二章では、助産師の立場からみた出産の変容を明らかにしていきます。助産師（産婆）は、妊産婦やその家族、また地域の人々と独自の関係を築きながら、日本の出産を支えてきました。助産師は、医者とは異なり正常分娩しか扱えませんが、だからこそ、より妊産婦の身体の声に敏感であったともいえます。

第三章では、異文化のお産の一例として、ミクロネシア・パラオ共和国の出産儀礼について報告を願いました。第四章では、その背後にある生と死に対する人々の意識の変容を抑えておくことが不可欠と考え、コメントを願いました。また、ディスカッションでは、現代社会を生き抜く術として、人生のグランドデザインを描くといったことが具体的に論じられます。

はじめに（安井眞奈美）

序章

第1章 文化の中で創られる出産

文化としての出産（波平恵美子）

コメント・火と出産（飯島吉晴）

第2章 昔の出産に学ぶ

助産師の皆さんへの公開インタビュー

（青柳裕子・石井希代子・奥田朱美・東田百合子）

「産む力」を引き出す助産師（安井眞奈美）

自宅出産のころ 滋賀県マキノ町知内の場合（柿本雅美）

第3章 異文化の出産に学ぶ

パラオ共和国の概要と出産儀礼（安井眞奈美）

パラオの出産——いま・むかし（リンダ・テラミス）

第4章 出産をとりまく社会の変化

日本文化の変容の中で出産を考える（小松和彦）

ディスカッション・総括

（梶間敦子・波平・小松・飯島・齊藤純・安井）

おわりに

パラオよりシンポジウムに参加して（ローレンツァ・イセ）

天理大学生の感想

体裁

・A5判・並製・カバー

・二〇〇頁

定価

・一八九〇円

（本体一八〇〇円）

発行所 風響社

114-0014 東京都北区田端四一―四一九
電話〇三（三八二八）九二四九
http://www.fukyo.co.jp

注 文 書
流通センター取扱品
発売
風響社 TEL: 03-3838-9249
税込み
一八九〇円
部

出版 地方

安井眞奈美 編

産む・育てる・伝える

—昔のお産・異文化のお産に学ぶ—

ISBN978-4-89489-650-5 C0039 ¥1800E

〔お客様控え〕

ご氏名

ご住所

お電話

月 日